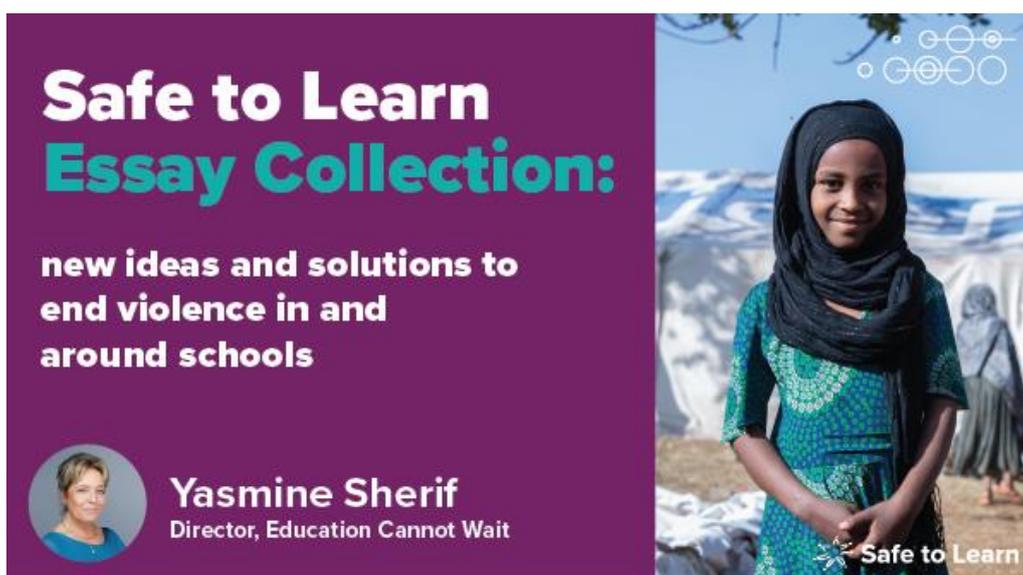


記事掲載：2022年6月

翻訳：2022年8月

## 紛争や緊急事態が学校での暴力をどのようにエスカレートさせるか 私たちは何をしなければならないのか



ウクライナの武力紛争によって、紛争時には学校は安全ではなく、暴力の標的になる可能性があることを、またしても痛感させられました。2022年2月17日から3月3日の間だけでも、ウクライナでは教育に対する攻撃が20件以上報告されました。教育省は、政府および非政府の支配地域で160の教育施設が破壊されたと伝えています。

ウクライナは、学校や教育が戦争の手段として狙われる危機的状況にある多くの国々の内の1つです。紛争の影響を受けている西・中央アフリカ諸国、ブルキナファソ、カメルーン、中央アフリカ共和国、マリ、ニジェール、ナイジェリアでは、学校に対する攻撃は303件から802件に増加しています。そしてこれらの国々に、ECWは数年間にわたって継続的に教育投資をしています。ニジェールのティラベリ州だけでも、紛争の影響による学校閉鎖が2021年に312件から758件に増え、少なくとも72,000人の少年や少女が教育の機会を奪われました。

学校周辺で発生する暴力は、子どもたちや教員が学校施設を利用できなくなるという長期的な影響を与える可能性があります。中央アフリカ共和国のボアリでは、学校周辺に地雷や即席爆発物（手に入りやすい材料で作られる簡易的な爆弾）が散乱しています。中央アフリカ共和国には必要な地雷除去能力がないため、生徒たちは学校に戻ることができません。

また、武装勢力の拠点や兵舎、拘置所として使用されている教育施設が数えきれないほどあります。学校が武装勢力に利用されることで攻撃の標的となり、校舎が破壊される危険性が高まります。このような状況のため、教材やその他の学用品、備品が略奪されることがとても多いのです。

暴力と紛争は強制的な移住をもたらし、国内避難民や難民の子どもたちや若者、そして彼らや教員が定住するホストコミュニティの学校教育や学習に悪影響を与えます。緊急事態や長期化した危機下にいる少女たちは、女性であるということを理由に暴力の標的になり、特に危険にさらされています。武装勢力は、特に少女たちが教育を受けるのを阻止するために学校を攻撃の標的にすることが報告されています。学校までの距離が遠く、少女たちが通学路で武装勢力に遭遇するリスクもあるため、多くの家族が娘を学校に通わせません。学校とその周辺でのジェンダーに基づく暴力にさらされるリスクを減らすために、娘を結婚させさせるのです。他にも、少女は誘拐されるリスクや性奴隷にされるリスク、戦闘員との早婚のリスクも高まっています。少年の場合、戦闘員として強制的に徴用されたり、軍事作戦の支援者として利用するために誘拐されたりするリスクが非常に高まっています。

**地球上で最も危険な環境で、安全に学ぶことができないまま生きている子どもたちや若者たちこそ、私たちが最初に手を差し伸べるべき存在なのです。紛争下の教育の継続に重点を置いた投資を行う必要があります。**

学校に対する攻撃は、「すべての人に包括的で公平な質の高い教育を提供する」という持続可能な開発目標（SDGs）の目標 4 の達成に向けて既に奮闘していた、脆弱で紛争の影響を受けた国の教育システムをさらに後退させることになりました。世界のあらゆる地域で見られる中等教育への就学率の向上は、紛争の影響を受けたサハラ以南のアフリカでは実現できていません。同様に、世界中の 6,200 万人の少女たちのジェンダー平等はまだ達成されておらず、未達成の地域は暴力が蔓延するサハラ以南のアフリカに最も集中しています。

紛争や緊急事態は、学校内やその周辺での暴力を引き起こし、特に少女に大きな影響を与え、元々から脆弱な教育システムの構造的問題を悪化させます。毎年、危機の影響を受けた何百万人もの少女や少年たちが取り残され、今日では、**2 億 2200 万人の子どもたち**が教育支援を必要としています。この数字の背景には、子どもたちと教員を標的にした繰り返される数多くの暴力があるのです。彼らの多くは、学ぶため、あるいは教えるために学校に通っているというだけで、脅迫され、嫌がらせを受け、身代金を要求されて

誘拐され、あるいは殺されています。また、紛争などの出来事の後、長い間、心理的なトラウマの傷跡を背負っている人も多くいます。

地球上で最も危険な環境で、安全に学ぶことができないまま生きている子どもたちや若者たちこそ、私たちが最初に手を差し伸べるべき存在です。紛争下での教育の継続や、学校の復旧、学校とその周辺の対人地雷や不発弾の除去、危機の影響を受けた子どもや若者の受け入れ、教員研修とポジティブ教育（子ども達の学ぶ力の育成に加え 1 人ひとりの日々の充実感や幸せを支援する教育的アプローチのこと）が求められています。さらに、メンタルヘルスと心理社会プログラム、ジェンダー平等と少女をエンパワメントするコミュニティへの介入、安全でない学校に通わざるを得ない生徒への保護支援にも、投資の焦点を当てなければなりません。教育施設への攻撃の禁止は、国際人道法および学校保護宣言に明記されています。施設のみならず、私たちはそこにいる子どもたちを含む人々を保護する必要があります。その保護がなければ、何百万人もの人々が希望ではなく、恐怖の中で暮らすことになります。これは 21 世紀において許されることではありません。

このエッセイは、ECW とパートナーの支援を受けて、「The Safe to Learn イニシアティブ（安全な学びのためのイニシアティブ）」と「End Violence Partnership（子どもに対する暴力撤廃のためのグローバルパートナーシップ）」が発行したエッセイ集「Safe To Learn Essay Collection（安全な学びのためのエッセイ集）」のためにヤスミン・シェリフさんが執筆したものです。このエッセイ集は、学校内外で起こる様々な暴力の原因を検証し、それに対処するために書かれています。

【翻訳前の記事（英語）】

<https://www.educationcannotwait.org/news-stories/directors-corner/safe-learn-essay-collection-how-conflict-and-emergencies-escalate>